両側人工股関節置換術を受ける患者様

患者様用

患者様氏名：　　受持医署名：　　受持看護師署名　　受持理学療法士名

月日（日時）	/	/	/	/ ～ /	/ ～ /	/ ～ /	/	/
経過（病日等）	入院日	手術当日	術後1日	術後2日	術後3日	術後4日目～7日	術後8日目～14日	術後15日目～21日
達成目標	◇手術の必要性が理解でき、手術に同意している ◇手術前の準備が整っている ◇退院基準を理解する	◇深部静脈血栓の徴候がない ◇下肢のしびれや冷感がない ◇痛みがコントロールできる ◇脱臼を予防するための方法理解できる ◇手術・麻酔後呼吸と循環動態が安定している。	◇深部静脈血栓の徴候がない ◇下肢のしびれや冷感がない ◇痛みがコントロールできる ◇脱臼を予防するための方法理解できる ◇車椅子に移乗できる	◇深部静脈血栓の徴候がない ◇下肢のしびれや冷感がない ◇痛みがコントロールできる ◇脱臼を予防するための方法理解できる ◇車椅子に移乗できる	◇深部静脈血栓の徴候がない ◇下肢のしびれや冷感がない ◇痛みがコントロールできる ◇脱臼を予防するための方法を理解できる ◇車椅子で移動できる	◇深部静脈血栓の徴候がない ◇下肢のしびれや冷感がない ◇痛みがコントロールできる ◇脱臼を予防するための方法理解できる ◇車椅子や歩行器で移動でき 	【転院可能】 ◇深部静脈血栓の徴候がない ◇下肢のしびれや冷感がない ◇痛みがコントロールできる ◇脱臼を予防するための方法理解できる ◇歩行器や一本杖を使用し歩行ができる	【退院基準】 ◇深部静脈血栓の徴候がない ◇下肢のしびれや冷感がない ◇痛みがコントロールできる ◇脱臼を予防するための方法を理解できる ◇一本杖を使用し歩行ができる ◇階段昇降ができる ◇退院後の訓練ができる
治療・薬剤（点滴・内服）	持参薬の確認をします 痛み止めの内服薬を飲みます	麻酔科医の指示で内服薬の調をします 手術後に500ｍｌの点滴が3本と痛み止めの注射、吐き気止めの注射があります	朝夕抗菌薬の点滴があります 血栓予防のために血液をさらさらにする内服薬を一週間内服します					
処　置	手術する部位を間違わないように手術をする足に医師がペンで印をつけます 手術当日に弾性ストッキング装着するのでふくらはぎの測定をします	手術室に入る前に弾性ストッキングを装着します 手術後にフットポンプを装着します	フットポンプを外します 弾性ストッキングは歩行できるまで装着します			傷口のガーゼを除去します 		両側TKA
検　査	必要に応じて血液検査や整形外科以外の診療科の診察があります		血液検査があります					
活動・安静度	制限ありません	手術後3時間はベッド上安静です	車椅子に移乗できます			歩行訓練をします	一本杖歩行訓練をします	
食　事	夕食まで食事ができます	朝昼は絶食です 手術後3時間たちましたら看護師がお腹の動きを確認し飲水できます	通常の食事になります					
清　潔	入浴をします		看護師が身体を拭きます			術後4日目以降ではガーゼ除去後シャワー浴ができます		
排　泄	排便の確認をします	手術後尿の管が入ってます	尿の管が抜けてトイレでできます					
患者様及びご家族への説明 栄養指導 服薬指導	麻酔科医師が診察いたします 手術室看護師の訪問があります 理学療法士が手術後の訓練の説明をいたします 脱臼を予防するための方法について説明いたします 薬剤師が薬についての説明をいたします	受持医が手術の結果と今後の治療について説明いたします	リハビリを始めます 看護師より血液をさらさらにする内服薬について説明があります	主治医より病状について説明があります		必要時、転院調整を始めます		主治医より病状について説明があります 退院後の生活について理学療法士や看護師から説明があります

注）入院期間については現時点で予想される期間です。

国立病院機構熊本医療ｾﾝﾀｰ整形外科　２０１７．03改訂